平成29年度実施

市民協働「熊谷の力」事業「はじめの一歩助成金」事業

合同成果報告会



熊谷市市民活動推進課

次 第

日 時:平成30年7月3日(火)午後1時30分から

会 場:大里コミュニティセンター 大集会室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告発表 13:35~16:25 (予定)

市民協働「熊谷の力」事業

報告	報告 区分 事業名 E 表順		報告者		発表
発表順			市民活動団体	所管課	予定時刻
		万吉地区文化遺産保存事業	万吉自治会	江南文化財センター	13:35~ 13:45
2	市民提案	地域猫活動の推進 命を繋ぐ 一殺処分ゼロを目指して一	COCOレンジャー	環境推進課	13:45~ 13:55
3		面会交流支援事業	特定非営利活動法人 面会交流支援こども のおうち	こども課	13:55~ 14:05
4		市内ショップ 「移動健康カフェ」事業	特定非営利活動法人 NPOくまがや	商工業振興課	14:05~ 14:15

「はじめの一歩助成金」事業

(10分休憩)

報告	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表
発表順				予定時刻
		にじいろリングプロジェクト~子どもの		
(1)		笑顔は宝物~	にじいろリングプロジェ	14:25~
		ドキュメンタリー映画「ずっと、いっし	クト実行委員会	14:35
		よ。」上映会		
0		カゲニがは、松松司両	熊谷市子ども会育成連絡	14:35~
2	チャレンジ助成金	タグラグビー推進計画	協議会	14:45
3		ピンクリボン啓発階段アート	NPO法人くまがやピン	14:45~
9		ことの りかい 合光階段 ケート	クリボンの会	14:55
		エベノカーノ処共民並及事業	手づくりマイ紙芝居	14:55~
(4)		手づくりマイ紙芝居普及事業	紬の会	15:05
(マコナアシュ 江州ル 声光	NPO法人	15:05~
5		エコオアシス活性化事業	エコネットくまがや	15:15

(10分休憩)

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
6		年代健康クラブ健康増進事業	年代健康クラブ	15:25~ $15:35$
7	カタート助成金	寺カフェi n愛染堂	寺カフェ講中	15:35~ 15:45
8		オープンデータと ICT を活用した安心安 全な地域社会づくり	Code for Kumagaya	15:45~ 15:55

- 4 講 評
- 5 閉 会

熊谷市協働事業提案制度

平成29年度実施 市民協働「熊谷の力」事業 成 果 報 告 書

事 業 名	市民協働「熊谷の力」万吉地図	区文化遺産保存事業
実施団体等	実施団体: 万吉自治会	所管課:江南文化財センター

1	事業目的	万吉地区に現存する文化的に価値の高い文化財の調査、保存をとおし、住民の郷土へ		
		の自信と愛着を高め、もって地域力の向上を図	1る。	
2	事業概要	1 文化財調査事業:地域の9つの文化財を対象	に、文献等をもとにした調査研究	
		専門調査員による3つの寺	院の仏像調査	
		2文化財啓発事業:文化財の調査結果をまとめ	た文化財ガイドブック及び文化財めぐ	
		りお散歩マップの作成並ひ	「に文化財に関する解説板の設置	
3	事業期間	平成29年4月1日~平成	30年3月31日	
4	事業区分	市提案事業・市民提	案事業	
5	事業形態	委託事業 ・ 補助事	業(補助率 80%)	
6	事 業 費	総事業費: 4 1 1, 197円 (A+B+C)	事業収入: 73,600円(A)	
		実施団体の負担額:97,597円(B)	市の負担額:240,000円(C)	
7	事業成果と	●受益対象への具体的な成果		
	波及効果	文化財ガイドブックの作成・配布及び解説板	の設置は、地域住民にとって、郷土の	
		偉人や文化財についての認識を深める資料にな	るとともに、次世代が郷土を知る上で	
		の情報提供ができた。また、万吉新田検地帳などの古文書を発見できた。		
		●達成度		
		2 1 名の公募による推進委員と自治会役員 1 0 名を含めた強固な推進組織を立ち		
		上げることができ、計画通りに事業の推進が図れた。		
		●波及効果		
		平成30年度アルミ缶回収事業やいきいきサロン万吉事業へのボランティア募集		
		に対し、登録者が増加するなど、地域住民の結	東力の高まりを感じる。	
8	協働の成果	●実施団体から見た協働の効果		
		仏像調査をはじめ、9月に実施した文化財調	査報告会での指導助言、文化財ガイド	
		ブックの内容確認等々、協働だからこそできた事業である。		
		●所管課から見た協働の効果		
		地域の歴史や文化遺産の啓発を市民協働で実施することにより、地域住民との交流		
		や文化遺産を守り発信するコミュニティの醸成	はにつながった。	
9	今後の展開と	●実施団体から見た今後の展開と課題		
	課題	文化財の保存・整備のための組織の確立と後	継者の育成を図ること。	
		●所管課から見た今後の展開と課題		
		地域での取り組みや調査成果を総合的に発信	するツールとして、定期的な報告会や	
		インターネットメディアへの情報提供が必要に	なる。	

平成29年度実施 市民協働「熊谷のカ」事業 成果報告書

実施団体等	実施団体: COCO レンジャー	· ·管課:環境推進課		
关	天旭団体:0000 レフラヤー	目标,垛况推连体		
1 事業目的	野良猫の無秩序な増加を抑制し、殺処分の対象となる。 去勢手術を施し、元の場所に戻す。戻したのちは、地域 て世話をするなど、一定のルールに従い、猫を一代限	或の方々により、トイレや餌やりの時間を決め		
2 事業概要	2 リターン後の適切なえさやり、猫用トイレの管理 レンジャーにて実施する。	2 リターン後の適切なえさやり、猫用トイレの管理を地域の方々、えさやりをしている人、COCO		
3 事業期間	平成29年4月1日~平成	30年3月31日		
4 事業区分	市提案事業・・・・市民	提案事業		
5 事業形態	委託事業 ・ 補助	事業(補助率 100%)		
6 事業費	総事業費: 1, 655, 038円(A+B+C	事業収入:304,038円(A)※寄付金、募金及び預金利子		
0 争未負	実施団体の負担額: 0円(B)	市の負担額: 1, 351, 00(円(C)		
7 事業成果と 波及効果	●受益対象への具体的な成果 不適切なえさやり等で野良猫が増えてしまったとい 動を野良猫対策の一つとして提案することができた。 手術も概ね完了し、えさやり等も適切に管理できる TNR 活動の実施数も156匹となり、また、多頭飼育がった問題もこの事業を通じて確認することができ ●達成度 地域猫活動の啓発活動として市報、ホームページにする地区の自治会長等への事前説明を行ったことで TNR 活動の実施数も156匹となり、当初の目標である。 一波及効果 野良猫を起因とする様々な問題及び野良猫対策に対した野良猫対策事業の必要性を確認することができ	。また、実際に地域猫活動を実施し、不妊去はうになった場所もできた。 育崩壊現場など、これまで市が把握できていた。 活動内容を掲載するとともに、TNR 活動を実 、概ねスムーズに活動できたと考えている。 あった70匹を大きく上回ることができた。 する市民のニーズを把握することができ、継		
8 協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 市民協働事業として TNR 活動を実施することによっことを市民に対し広報できた。 市が自治会長等に対する事前説明を実施したことにるよりも、スムーズに TNR 活動を実施することがで市報等を通じ、「地域猫活動(TNR 活動)」というもの ●所管課から見た協働の効果 「地域猫活動(TNR 活動)」を協働事業で行うことにとができ、また、多頭飼育崩壊現場などの問題も、TNR 活動の実施数も当初の目標値を大きく超えることとができた。	より、ボランティア団体が単独で活動を実施きた。 わをより周知することができた。 より、実際にどのような活動なのか経験する 新たに把握することができた。		

て実施する計画である。

9 今後の展開と課題

●実施団体から見た今後の展開と課題

「地域猫活動 (TNR 活動)」の市民に対する周知が十分とは言えず、今後も啓発活動を継続する必要がある。その周知には市報、市ホームページの活用など行政が主体となり実施していく必要がある。市民協働事業はあくまで単年度事業であり、市補助金も今年度限りとなる。次年度以降も、ボランティア団体として活動を継続していくが、不妊去勢手術費等の資金面での不安が残る。

ボランティア団体だけでなく、野良猫で困っている個人や法人が地域猫活動が実施できるようにするためにも、行政からの不妊去勢手術費等の資金面での補助が必要と考える。

●所管課から見た今後の展開と課題

「地域猫活動」を含めた「飼い主のいない猫」対策事業の必要性を認識できたが、ボランティア団体や個人が活動を実施する場合には、やはり不妊去勢手術費用等の資金面での負担が大きい。そのため、来年度以降については、少しでもその負担を減らすため「公益財団法人どうぶつ基金(行政枠)」の利用を計画している。どうぶつ基金の協力により「地域猫活動」のための不妊去勢手術費用は原則として無料となる。

「地域猫活動」の市民に対する周知も十分とは言えないため、市報等を通じて、その啓発活動を継続して行っていく必要がある。

1 事業目的

平成29年度実施 市民協働「熊谷のカ」事業 成果報告書

どもの健全な精神発達を図る。

事 業 名	面会交流支援事業	
実施団体等	実施団体:特定非営利活動法人面会交流支援 こどものおうち	所管課:こども課

離婚などにより親と離れて暮らすことになった子どもと別れた親を面会させる支援をすることで子

		こののほ子は相性元ほど回る。		
2	事業概要	1 面会交流相談		
		毎週火曜と土曜に、それぞれこども課相談室、商工会館会議室を利用し、無料の面会交流相談を		
		実施。また、さらに具体的な相談を希望する者には、有料の相談を行う。		
		2 面会交流支援活動の周知		
		ポスターやパンフレットを作成し、市内公民館や保育所等に配布・設置して親子の面会交流活動		
		について周知・啓発を行い、支援する機関があることを知ってもらった。		
3	事業期間	平成29年4月1日~平成 30年3月31日		
4	事業区分			
	チルーバ	市提案事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
5	事業形態			
		委託事業・補助事業(補助率 98%)		
		総事業費:546,340円 (A+B+C) 事業収入:9,000円 (A)		
6	事 業 費	実施団体の負担額: O 円 (B) 市の負担額:537,340円(C)		
7	事業成果と	●受益対象への具体的な成果		
	波及効果	1 面会交流相談		
		無料相談 83日実施、12名受理		
		有料相談 3名受理		
		2 面会交流支援活動の周知		
		ポスター 公民館や学童等市内105箇所に配布・掲示		
		リーフレット 1,000部を市民課の離婚手続き時に配布		
		パンフレット(2種類) 各1,000部を行政センターや公民館等で設置・配布		
		・		
		1 面会交流相談		
		無料相談 12%(目標100名に対し受理12名)		
		有料相談 6%(目標50名に対し受理3名)		
		2 面会交流支援活動の周知		
		ポスター・リーフレットの作成・配布等 100% (目標数を作成・配布)		
		●波及効果		
		協議離婚家庭ではほぼゼロに近い子どもと別居親との面会交流の必要性の認知について、市役所		
		で相談できると市民に知ってもらった。		
8	協働の効果	●実施団体から見た協働の効果		
	1333 1243 02 793 71	家庭裁判所は命令するのみで具体的な面会交流の実施については相談する公的機関がなく、その		
		ため離婚家庭で面会交流を実施しているのは2割にも満たない状況に、埼玉県内で熊谷市が最初に		
		一石を投じたことは大きかったと考える。子育て支援の一部として市民に知ってもらい、面会交流		
		の重要性が周知される下地ができた。		
		■ 一		
		い子どもとの面会についてどのように交渉したらよいのか、どの程度の頻度で面会するのが一般的		
		なのかといった悩みを持つ相談者に対し、有益な助言を与えることは難しかった。今回の協働によ		
		り、面会交流について相談したいという市民のニーズに対し、面会交流相談を利用するという提案		
		を行うことができ、専門的知識を持つ調停委員から具体的な助言を与えることができた。		
		また、面会交流支援事業は全国的に見ても先進的な事業であり、事業を行ったことで新聞等にも		
		取り上げられ、面会交流についての認知度を高めることができた。		

9 今後の展開と課題

●実施団体から見た今後の展開と課題

面会交流について、民法も改正され、世界標準になっていくことを誰も知らず、そのため子どもの権利を害しているという状況を打破していかなければならない。その点ではささやかなNPO法人での限界があり、どうしても行政の支援は必要と考える。面会交流をするためには離婚時の親教育が必要という意見が主流になってきており、子育て支援の一部として市に期待するところである。

●所管課から見た今後の展開と課題

面会交流の支援は、子どもの健全育成のために有益な活動であり、面会交流の法整備を求める声も高まっている。今回の協働事業では面会交流支援についての認知を広げることを目的のひとつとして活動を行ったが、まだ市民への浸透は十分とはいえない状況である。今後も連携して広報活動を行っていくことで、より多くの市民に面会交流について知ってもらうことが必要である。

また、面会交流に関する市民からの相談は、今後、こども課はもちろん、他部署でも受ける可能性がある。その際、担当外ということで終わらせず、こどものおうちへ相談をつなげるような体制作りについても、検討していきたい。

平成29年度実施 市民協働「熊谷の力」事業 成果報告書

事 業 名	市民協働「熊谷の力」移動健康カフェ事業	
実施団体等	実施団体:特定非営利活動法人 NPO くまがや 所管課:商工業振興課	
1 事業目的 	市内のお店で健康講座を開催することにより、市民の健康意識を高めることに加え、帰りに買い物をしてもらうことで、商業の活性化を図る。	
2 事業概要	健康づくりに長けた講師(からだのメニュー)や紙芝居等を展開する市民団体(こころのメニュー)と、会場となる市内店舗をマッチングさせ、「市民の健康づくり」と「市内店舗の活性化」をテーマに、賑わいの創出を図る。 (1)会場となる市内店舗、講師、市民団体へ依頼をし、日程調整 (2)チラシやポスター、SNSよる事前周知 (3)当日の進行 (4)イベント終了後、会場となったお店や周辺店舗での買い物を推進	
3 事業期間	平成 30 年 1 月 21 日~平成 30 年 3 月 26 日	
4 事業区分	市提案事業 · 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 • 補助事業(補助率80%)	
6 事業費	総事業費: 87,200円(A+B+C) 事業収入: 300円(A) 実施団体の負担額: 17,900円(B) 市の負担額:69,000円(C)	
7 事業成果と	●受益対象への具体的な成果	
波及効果	・健康に関する知識が身につき、健康に対する意識が高まったことだけでなく、紙芝居のなかで紹	
	介されていた熊谷にまつわる知識も得ることができた。 ・また、会場となる店舗については、近くに住んでいるにも関わらず訪れたことがなかった方がイベントをきっかけに初めて来店したなどの効果があった。 ●達成度 ・回数については、当初全12回の開催を予定していたが、お店の都合等により、日程調整が難航し、全4回の開催となってしまい、課題が残った。 ・集客については、知り合いからまたその知り合いへと広めてもらうという点については十分達成できた。 	
	 ●波及効果 ・会場となるお店は、快く場所を提供してくれることがわかったため、新たなお店を開拓し、同時にお店のPRもできたらいいと考えている。 ・今回は高齢の方が多かったが、次回は若い世代の方にも参加してもらうことで、その場で地域コミュニティの確立を図れたらいい。 ・全4回開催したことにより、モデルづくりができたため、市民団体、市内店舗との協働による自主事業として継続していくことが可能。 ・今回の事業により、健康に対する意識が高い方や、紙芝居等の活動の成果を発表したい方が多くいることがわかった。 	
8 協働の効果	 ●実施団体から見た協働の効果 ・新規事業のため資金面が課題となるが、全面的にバックアップをしてもらえたことでプロフェッショナルな講師の要請や、チラシの作成をすることができた。 ・市との協働による実績ができたため、今後会場や講師に依頼をしていくうえで交渉をしやすくなった。 	

●所管課から見た協働の効果

- ・新規開店予定のカフェ等、当課にはない情報を市民団体を通じて得ることができ、新たな繋がり を生むことができた。
- ・商業と福祉の両面からのアプローチは斬新なアイデアであり、また新規開店予定のカフェでの開催を計画する等、新たな視点を発見できた。

9 今後の展開と課題

●実施団体から見た今後の展開と課題

- ・候補となった会場との日程調整がうまくいかず、周知期間が短くなってしまったため、今後展開 としては、市やその他商工団体等の協力を得ながら、早い段階で計画を練り、より多くの集客を 図りたい。
- ・実施団体も他の仕事を行いながらの事業であるため、今後は業務を振り分け、会場や講師の依頼 等の営業活動に力を入れていきたい。
- ・チラシの配架場所を増やしていく。
- ・市外での開催も検討しており、その際には熊谷のPRをしていきたい。
- ・市には、作成したチラシの配架やポスターの掲示等の広報面から、引き続き協力をいただきたく、 また今後は市に後援を依頼したい。

●所管課から見た今後の展開と課題

- ・今回は周知期間が短かったため、集客に課題が残ったが、早期に計画を策定し、市報やメルくま等を通じて情報発信することで解決できると考える。
- ・また、今後は、市民団体と市内商業者の間に入り、市内の様々な店舗で開催できるようサポート することで、より円滑かつ意義深い活動になると考える。

団体名 にじいろリングプロジェクト実行委員会

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 領報 古 青 (平 成 2 9 年 度 <i>)</i>
1 助成金名		「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		にじいろリングプロジェクト〜子どもの笑顔は宝物〜 ドキュメンタリー映画「ずっと、いっしょ。」上映会
3 交付決定助成金額		300,000円
4 助成事業に要した経費の額		209,456円
5 助成金要望額		157,000円
	(1) 助成事業の 目的達成度	ドキュメンタリー映画「ずっといっしょ」上映会に参加された多くの方々が、「家族」や「家族の在り方」について共に考える機会となった。また、日々の忙しさで気に留めることのなかった当たり前にある幸せに改めて気付く機会となった。 私達の暮らす地域には、さまざまな人とその家族が暮らしていること。そして、その家族それぞれに「カタチ」が存在することに映画を通して気付き、知ろうとする事で皆が暮らしやすい地域に何が必要かを考えるきっかけとなった。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	上映会に参加された皆様からいただいたアンケートには、 ・家族のみんなでずっと仲良くしていきたいと思いました。 ・とても愛おしい存在です。 ・障害児を育てる家族の幸せそうな顔が印象的でした。 ・家族ってなんだろう 考えるきっけになりました。 ・息子が若くして亡くなりました。嫁と、子供は今どんな気持ちか考えました。新しい家族を大切にします。 ・血は繋がらなくても愛していけば家族になれると思った。 ・かけがえのない大切なものは家族だと気付きました。 などの感想が寄せられました。上映会を通じ「家族の絆」の 大切さや、家族とは何かを改めて考える機会となった。

		また、上映後、その時の想いを綴られた付箋アートには、 様々な世代の方々から家族に対する素直な気持ちを表現し ていただいた。お互いの想いを目で触れることが出来たこと は、これからの家族の歩みにいい影響を与えるのではないか と思う。 【鑑賞者数】会場/熊谷市江南総合文化会館ピピア
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	8月3日(木) 成人69名 児童・生徒13名 計82名 ※未就学児19名(内託児利用13名) 8月5日(土) 成人62名 児童・生徒 7名 計69名 ※未就学児12名(託児なし)
		合計151名
7 成果の自己評価		昨年度に引き続きドキュメンタリー映画上映会を開催した。参加されたみなさまから聞かれた言葉は、家族への感謝の気持ちであった。「いのち」の素晴らしさに焦点をあてた前作から、「家族」を問う今回の作品は、実在する人々の人生から多くのことを学び得る機会となった。また、映画から得られたメッセージを参加されたみなさまと共有できたことは大変意味のあることであった。今後も活動を継続し、障害の有無に関わらず子どもたちが関わり合いを持ち、地域の中で共に育ち学びを深め、分け隔てのない共生社会を実現できるよう働きかけて行きたい。

団体名 熊谷市子ども会育成連絡協議会

1 助成金名		「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		タグラグビー推進計画
3 交付決定助成金額		300,000円
4 助成事	業に要した経費の額	400,000円
5 助成金要望額		300,000円
	(1) 助成事業の 目的達成度	ラグビータウン熊谷を根付かせるためには、子どもたちを育てている子ども会組織を基盤に地域スポーツにタグラグビーを根付かせていきたい。 今回の助成によって、子ども会でタグラグビーを活動する機会を頂いたことにより、地域の保護者も関わり、大人たちもラグビーに触れることにより、ラグビーワールドカップ熊谷大会への関心が高まりました。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	助成によって、タグラグビーが地域健全育成活動をしている熊子連組織を基盤に地域スポーツとして活動することができ、伝統ある熊子連球技大会が第50回記念大会を迎えるにあたり、タグラグビーを取り入れることができ、球技大会に多くの子ども会の会員の参加があった。
7 成果の	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容 自己評価	助成により、各子連にタグラグビーの道具を支給することができた。また、指導者育成のためのルール講習会を1回、合同練習会を5回開催することによりチーム結成の手助けとなった。熊子連球技大会では14チーム参加のもと大会を開催することができた。 また、スポレクのタグラグビー大会に参加するチームもあり、啓発活動に繋がることができた。

るにあたり、熊谷市全体でラグビーに触れ、理解し熊谷市民 にとって、関心を高め、ラグビータウン熊谷を根付かせるた めに熊子連とも協力することができた。

今回、タグラグビーを熊子連球技大会に導入することによって、ラグビーへの関心は高まった。来年度も熊子連球技大会でタグラグビーを開催することが今年度の実績により決定した。今年度の指導者講習会や合同練習会の開催によりチーム作りへの啓発ができた。来年度はより多くのチームが参加できる熊子連球技大会が開催されるよう、各子連へチーム作りを促すために、ルール講習会・合同練習会並びに、子連ごとの練習会に講師を派遣したいと考えております。

また、子ども会として活動したことは、保護者が監督・コーチ等で関わることにより、地域活動の活性化と子供たちの健全育成につながったと考えます。

団体名 NPO法人くまがやピンクリボンの会

1 助成金	名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		ピンクリボン啓発階段アート
3 交付決定助成金額		300,000円
4 助成事業に要した経費の額		413,376円
5 助成金	要望額	300,000円
	(1) 助成事業の 目的達成度	階段アートのデザインはアルスコンピュータ専門 学校の江尻晃海さんの作品に決定し、平成30年1 月5日まで実施した。学生の間でもピンクリボン啓 発活動が知れ渡り、大人になったら検診に行きます と声をかけてくれました。デザインはとてもきれい で3ヵ月間剥がれることなく無事終了しました。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	階段アートはとても大きくインパクトがあり、たくさんの人の目に止まることができました。また、 熊谷市のほけんだよりに掲載してもらい、市内の小中学校の子供達に配られました。 くまがや館での啓発パネル展示と触診モデル体験では、がんのしこりの硬さにおどろく人達もいました。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	子供が学校からもらったほけんだよりを私に渡し、ママが載ってるよ。お友達からもママが載ってるよと声をかけられたそうです。渡す時、「ママ、検診に行ってね」といいながら渡してくれました。子供が親に伝える事で、その子供の笑顔を守りたいと思う。そして検診へ行こうと思う。
7 成果自己評価		NPO法人くまがやピンクリボンの会としては成 果は120%であります。

団体名 手づくりマイ紙芝居・紬の会

	1.7620	順報百音(十灰 <i>63十度)</i>
1 助成金名		「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		手づくりマイ紙芝居普及事業
3 交付決定助成金額		273,000円
4 助成事業に要した経費の額		334,588円
5 助成金	要望額	250,000円
6 助成 事業の 成果	(1) 助成事業の 目的達成度	(1)紙芝居づくり 「紙芝居リーダー養成講座(実践コース)」により ①紙芝居の作成 ②演じ方などを実践活動を通して学んだ。各所で実践できるリーダーを育成し、紙芝居活動の普及を図った。 【目標:10作品 実績:33作品】100%以上達成 (2)紙芝居の上演・普及活動 施設やカフェ等で上演する際には「演じる方も観客も楽しめる紙芝居」をモットーとして楽しいものとすることに努めた。 ②オカリナ ①ハーモニカ ⑤合唱 などを入れたり、観客に紙芝居を演じてもらったりして双方向のコミュニケーションづくりに力を入れた。 延べ約700名の方に普及活動を行った。 【目標:350人 実績:700人】・・・目標達成 (3)紙芝居発表会 リーダー養成講座受講の終わりには「自作紙芝居の発表会」を実施した。「発表まで行った方」には手づくりマイ紙芝居・紬の会発行の「紙芝居・リーダー養成講座終了認定証」を授与し、表彰した。

		【目標:15人以上 結果:17人】・・・目標達成 (4)平成30年3月には「マイ紙芝居くまがやまつり」を行い、当会以外の団体や他の団体の紙芝居愛好者間との交流を図った。 *「マイ紙芝居くまがやまつり」には講師・発表者・市民・応援の有名な先生方を含めて、延べ約100名が参加した。有名な先生の飛び入り紙芝居発表もあり、紙芝居まつりは大成功であった。 (5)NPOくまがや主催の「移動健康カフェ」により、「まちなかのお店」の賑わいを図るため、「新規に作成した紙芝居」をカフェで上演した。 *①妻沼・澤田屋本店(2回) ②ゆめみる絵本屋さん ③江南・千本桜「カフェ・C8」などで計4回実施。
		(NPOくまがやからの依頼・実施率 100%)
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	「平成29年度 熊谷市民公益活動促進事業はじめの一歩助成金対象事業」として承認していただいたことにより、「第一回マイ紙芝居くまがやまつり」実施にも、マスコミをはじめ観光協会にも理解していただき、積極的なPR活動を行っていただくことができた。 *TV・新聞・WEBなどでのPR実施①JCOM「まちかどワイド」に2回登場②「埼北よみうり」に掲載③まちなか月刊誌「NAOZANE」に掲載④熊谷観光協会、くまがや館、熊谷経済新聞にWEB掲載⑤市報にてもPRしていただくことができ、市民に対するイベントの拡散に役立てることができた。 ⑥国際交流協会との協力で日本文化の紹介として、留学生に紙芝居を上演できた。 ⑦ラグビーワールドカップを睨んだ紙芝居への取り組みもできた。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	(1)毎週火曜日の10時~12時を「紙芝居サロン」とし、自作の紙芝居づくりや上演の相談に役立てた。平成29年度のサロンおよび発表会参加者総数は約700名となり、「第一回マイ紙芝居くまがやまつり」につなぐことができた。 (2)熊谷で初めて実施した「第一回マイ紙芝居くまがやまつり」は講師・発表者・市民の参加はもとより、有名な先生方も応援してくださり、大成功で終わることができた。
7 成果の	自己評価	平成 29 年度の計画は 100%以上実行でき、導入展開期と しては満足のいくものであった。

団体名 特定非営利活動法人エコネットくまがや

1 助成金	名	「スタート助成金」
2 事業名称		エコオアシス活性化事業
3 交付決定助成金額		175,000円
4 助成事業に要した経費の額		36,998円
5 助成金要望額		27,000円
	(1) 助成事業の 目的達成度	エコオアシスの市民の認知度が低いことから、ムサシトミヨが住む家(巣)の模型作りを行った。 併せて、ムサシトミヨの生態を学習する機会を提供しようとしたが、関係者の理解を得られず、実施できなかった。よって、達成度は、50%であった。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	11月3日にムサシトミヨ保護センター周辺にて、日本建築家協会会員の指導のもと23人の参加者が3チームに分かれトミヨハウスの作品を製作した。 一方、予定した学習会とまとめの会は、実施できなかった。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	ワークショップで製作した模型を、ムサシトミヨ保護センター内にて展示、来場者に供覧した。今後ムサシトミヨにより深く興味を持つ市民が増えるものと期待している。
7 成果の自己評価		今回のムサシトミヨハウスのワークショップを行うことで、 ムサシトミヨを保護してくれる市民の増加に寄与でき、当初 の目論見であるエコオアシスの活性化に近づけたと評価し ている。

団体名 年代健康クラブ

1 助成金	名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		年代健康クラブ健康増進事業
3 交付決定助成金額		83,000円
4 助成事業に要した経費の額		120,829円
5 助成金	要望額	83,000円
6 助成 事業の 成果	(1) 助成事業の 目的達成度	お茶のみ会=41回 延べ人数420人 脳トレ・運動(お手玉、太鼓リズム)=41回 初夏・秋ウォーキング=2回 延べ人数22人 俳句教室=7回 延べ人数399人 健康・歌声教室=5回 延べ人数197人 グラウンドゴルフ=7回 延べ人数26人
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	健康寿命を大柱に数種の健康教室を開催した。 文化的な『俳句教室』『歌声教室等』を開催した。 おしゃべりテラス事業はおしゃべりの後半、歌声教 室、ストレッチ、太鼓リズム等組み入れた。 郊外活動としてグラウンドゴルフ、ウォーキングで リフレッシュを図った。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	「皆で歌う」の合言葉に歌声教室が定着した。 ウォーキングや軽運動により骨、筋肉の増強トレー ニング習慣化が馴染んできた。 健康好循環の両輪①医師(主治医)の連携と②病に 立ち向かう強い意志の認識が芽生えた。 介護予防、お洒落教室等認識を新たにした。
7 成果の自己評価		2025年問題のきっかけづくりの手応えを得た。

団体名 寺カフェ講中

1 助成金	名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		寺カフェ in 愛染堂
3 交付決定助成金額		100,000円
4 助成事業に要した経費の額		50,000円
5 助成金要望額		0円
	(1) 助成事業の 目的達成度	コマ回し、かるた、紙芝居などを愛染堂で行い、 お年寄りから子供まで、幅広い年代の地域住民が 愛染堂を利用し、笑顔を見せてくれた。今回は事業 には予定していなかった、ストロービーズというも のも試験的に行ったが、子供たちに人気があった。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度(3) 助成事業の 成果の具体的	愛染堂周辺は限界集落と言われている場所であったが、今回の寺カフェを通して、子供たちが元気に走り回り、お年寄りの方も楽しそうに子供たちに昔遊びを教えている姿を見ることができた。地域のコミュニティの活性化に大きく貢献できた。 今回の事業を聞きつけ、熊谷経済新聞の取材や、愛染堂の絵馬を販売するにあたり、J:COM熊谷様のテレビの取材があった。中でも一番の成果は、他のお
内容 内容 7 成果の自己評価		寺での寺カフェ事業の依頼があったことである。今後の事業の発展に大きく繋がる成果であった。 子供たちとお年寄りの方の評判はとてもよく、愛染堂の行事に合わせることにより、毎回多くの参加者を得ることが出来た。しかし、今回計画していた講演会は、講師の方の体調不良で中止、演奏会も当日の台風で中止という結果になってしまった。

団体名 Code for Kumagaya

1 助成金名		「スタート助成金」
2 事業名称		オープンデータと ICT を活用した安心安全な地域社会づくり
3 交付決定助成金額		99,000円
4 助成事業に要した経費の額		11,775円
5 助成金要望額		8,000円
	(1) 助成事業の 目的達成度	6月に開催したアイディアソンでは目標以上の42名が参加した。以降、ハッカソンに向けたスケジュール調整を行ってきたが、審査員のスケジュールが整わず審査員の要請なく3月にハッカソン開催となり想定した達成度には至らなかった。
6 助成 事業の 成果	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	初回のアイディアソンより地域課題への注目度やICTを活用した解決が行えることを周知することができ、参加者からは継続した活動を求める声を多くいただいた。また、SNSを利用した情報発信では開設後245のフォロワーを獲得したことにより団体活動を広く知っていただくことができた。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	具体的な形にすることはできなかったが、アイディアソン/ ハッカソンを熊谷で開催することができ多くの方に知って いただくことができた。また、イベントの中から新たなアイ ディアが創出され地域社会づくりへの関心が高まった。
7 成果の自己評価		対外的なスケジュール調整がうまくいかず審査形式のイベントは実現することができなかったが、地域社会づくりや問題点などを洗い出し、みんなでアイディアを出し合い形にしていくといった進め方を実現できたことや、活動をきっかけとした新たな活動が発生したことは大変意義あることであると評価する。